

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	専門学校神田外語学院
設置者名	学校法人佐野学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
昼間部 専門課程	グローバルコミュニケーション科（2年制）	夜・通信	448 単位時間	80×2=160 単位時間	
	英語専攻科（2年制）	夜・通信	672 単位時間	80×2=160 単位時間	
	留学科（2年制）	夜・通信	0 単位時間	80×2=160 単位時間	※
	アジア/ヨーロッパ言語科（2年制） （スペイン語・フラン語ス・中国語・韓国語）	夜・通信	224 単位時間	80×2=160 単位時間	
	アジア/ヨーロッパ言語科（2年制） （インドネシア語・ベトナム語・タイ語）	夜・通信	224 単位時間	80×2=160 単位時間	
	児童英語教育科（2年制）	夜・通信	448 単位時間	80×2=160 単位時間	
	国際ビジネスキャリア科（2年制）	夜・通信	720 単位時間	80×2=160 単位時間	
	国際観光科（2年制）	夜・通信	352 単位時間	80×2=160 単位時間	
	国際ホテル科（2年制）	夜・通信	576 単位時間	80×2=160 単位時間	
	国際エアライン科（2年制）	夜・通信	688 単位時間	80×2=160 単位時間	
	英語基礎養成科（1年制）	夜・通信	0 単位時間	80×1=80 単位時間	※
（備考） 英語コミュニケーション専科、児童英語教育専科、国際エアライン専科は募集停止中					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<http://info.kifl.ac.jp/guide/index.html>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名	留学科
(困難である理由) 当学科は海外4年制または2年制大学への編入を目的とした学科です。本学で編入先大学の一般教養課程科目を学びこれを単位互換するため、設置科目の担当教員には、教員としての勤務経験はあるものの、必ずしも他の実務経験を有しているものではありません。	
学科名	英語基礎養成科
(困難である理由) 当学科は1年制で、英語基礎力の向上を目的とした学科です。英語指導経験の豊富な教員を担当させておりますが、必ずしも全教員に教員以外の勤務経験があるものではありません。	

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	専門学校神田外語学院
設置者名	学校法人佐野学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

以下サイトにおける基本情報にて、財務情報として公表（平成30年分では事業報告書のp3に掲載）

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kifl/main/about/outline/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	副理事長 (前職 株式会社取締役)	2019.4.1 ~ 2023.3.31	学園統括補佐
非常勤	株式会社 顧問	2019.4.1 ~ 2023.3.31	教育・研究担当
(備考) 学外者理事は上記2名の他3名の、計5名が委嘱されている。			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	専門学校神田外語学院
設置者名	学校法人佐野学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p> <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>各授業科目についてシラバスを作成している。各シラバスには、科目のねらい・科目内容・成績評価方法・使用テキスト・単位数・使用言語を記載し、合わせて授業週(授業日)ごとの授業内容(学習目標)を示し、受講する学生と授業計画を共有する。各シラバスは、各授業科目において、学期ごと最初授業に受講する全学生に配付される。その他、学生は、学生用インフォメーションサイトからダウンロードすることも可能(学生用アカウントにてログインが必要)。一般公開用としては、書面出力したシラバスをファイリングし、閲覧の用に供している(閲覧申込窓口:教務センター教育部門)。</p> <p>シラバスは、学科担当者が学内会議において指導方針の承認周知を経たのち、各担当教員が学科担当者との調整の上作成している。</p> <p>シラバスは前年度末までに学生に公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	書面出力したシラバスをファイリングし、閲覧の用に供している(閲覧申込窓口:教務センター教育部門)
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p> <p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>各授業科目の成績は、出席時間数・授業態度・テスト・レポート等で判断する。このことは入学案内書に記載している他、入学時ガイダンスで資料をもとに説明し、学生手帳・シラバス・学生用インフォメーションサイトへ掲載している。</p> <p>こうした教職員・学生の共通認識の下で、公正に学修成果を評価し、その評価はA～DおよびFで表す。A～Dの場合に合格(学修したもの)と認め単位を付与する。なお、成績証明書ではこれを秀・優・良・可および不可と読み替えて記載する。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 前項で示した通り、各授業科目はA・B・C・DおよびF（成績証明書においては秀・優・良・可および不可）で成績評価を行っているが、同時にこれらを数値化する場合のルールを定め、学生用インフォメーションサイトへ掲載、公表している。 その数値化のルールは、$A = 4 \cdot B = 3 \cdot C = 2 \cdot D = 1 \cdot F = 0$であり、これを Grade Point としている。各学生が履修した科目におけるこの合計値を総履修科目数で除した平均値、すなわちGPAを、本学では、姉妹校内部推薦枠の候補者選定や学業優秀者の表彰候補者選出など、また学生が編入学をする際の成績資料として活用している。</p>	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	http://info.kifl.ac.jp/guide/index.html 「カリキュラム概要説明文 P. 1-27」(p3 に掲載)
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業要件は、各学科において、定められたカリキュラム表に記載するすべての授業科目について合格することとする。また指定の試験を受験していることなどの条件も付加している。このことは、学生便覧である「学生手帳」に記載している他、入学時に掲載ページを示して全学生へ連絡している。以下インフォメーションサイトからの資料を参照されたい。</p>	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	http://info.kifl.ac.jp/file/pdf/studenthandbook2019_3.pdf p19～20（ただしグローバルコミュニケーション科は p21、留学科は p50～51、英語基礎養成科は p56）

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	専門学校神田外語学院
設置者名	学校法人佐野学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	毎年6月中旬に最新情報をHPに公開している。 https://www.kandagaigo.ac.jp/kifl/main/about/outline/
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告（書）	

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	グローバルコミュニケーション科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2352/147 単位時間/単位	1616 単位時間	608 単位時間	128 単位時間		
			2352 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人		55人	0人	112人の内数	142人の内数	254人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法 （概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準 （概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等 （概要） 単語テストを毎週実施し、卒業要件 TOEIC800 に必要な単語力を養成。1年次3学期の選択授業では習熟度別にクラス編成し、個々の能力に合わせた英語力の底上げを行っている。また、年間を通して、各界で活躍している卒業生をゲストに招き、学習面や就職活動の相談をする機会を設けている。希望者にはレベルに合わせた自主学習教材を作成しており、苦手分野が克服できるよう支援している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
11人 (100%)	4人 (36.4%)	4人 (36.4%)	3人 (27.3%)
（主な就職、業界等） ・卸売業 ・情報通信業界			
（就職指導内容） ・専門学校で培った高い英語力と、自身の興味や能力を発揮できる職業選択の指導。			
（主な学修成果（資格・検定等） TOEIC 900点台5名、800点台6名、工業英語能力検定3級11名 等。			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
39人	3人	7.7%
(中途退学の主な理由) 進路変更、学業不振、経済的理由、体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任制により、学生の個別情報、出欠席の把握や問題の早期発見を行い問題解決にあたっている。また学生相談室(臨床心理士)、医務室(正看護師)、及び保護者をも含めた連携体制を布くことにより退学率低減に取り組んでいる。また入学前の入学準備無料補習の実施に加え、ラーニングアドバイザー、TOEIC アドバイザーのカウンセリングによって学習面のサポートを強化し、授業について行けずに退学してしまうケースに対応している。学費支払に支障のあるケースについては学費支援提携ローンを導入した所、利用者も多く学費支払不能者の退学数は年々減少している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
文化・教養		専門課程	英語専攻科	○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験
2年	昼	2080/130 単位時間/単位	1008 単位時間	1120 単位時間		
			2128 単位時間			
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
1120人	1124人	11人	112人の内数	142人の内数	254人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
（概要） 各科目とも授業は習熟度別に行い、学生の理解度に応じた教材・進度で進めている。 また、クラス毎に毎週、又は、隔週で小テストを行うことで知識の定着を図っている。 特に下位レベルの学生に対しては1年次2・3学期に必修の補習を設置し、基礎事項 を徹底して身に付けさせている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
441人 （100%）	196人 （44.4%）	136人 （30.8%）	109人 （24.7%）
（主な就職、業界等） ・小売業界 ・運輸物流業界 ・航空空港業界			
（就職指導内容） ・専門学校で学んだ語学の知識を活用し、自身の興味や能力を発揮できる職業選択。			
（主な学修成果（資格・検定等） TOEIC 900点台15名、800点台65名、実用英語技能検定試験、ビジネス能力検定、 観光英語検定、医療事務能力検定 等。			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
1,072 人	105 人	9.8%
(中途退学の主な理由) 進路変更、学業不振、経済的理由、体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任制度、学生相談室と医務室における心身ケアサポート、ラーニングアドバイザー・TEOIC アドバイザーの設置およびカウンセリングの実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	留学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2496/156 単位時間/単位	2496 単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
			2496 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
280人	136人	0人	112人の内数	142人の内数	254人の内数		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
（概要） 本学科では、科目毎のシラバスに基づき、エッセイ、ワークシート、小テスト等を実施している。あわせて学期毎に補講期間を設け、学力の向上を補佐している。 また、通年のオリエンテーション授業の他、随時、専任教員による相談、面談、進路指導も行い、各自の語学力、GPAなどの把握を徹底し、個別指導を通じて、学生の留学の成功に努めている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
50人 (100%)	2人 (4.0%)	3人 (6.0%)	45人 (90.0%)
（主な就職、業界等） ・不動産業界 ・教育業界			
（就職指導内容） ・専門学校で海外留学に向けて学んだ知識を活用出来る職業選択の指導。			
（主な学修成果（資格・検定等） TOEFL iBT、TOEFL ITP、IELTS、TOEIC等。			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
123 人	17 人	13.8%
(中途退学の主な理由) 進路変更、学業不振、経済的理由、体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任制度、学生相談室と医務室における心身ケアサポート、留学センターによる留学カウンセリング、保護者会実施(1・2年で年10回)、ラーニングアドバイザーの設置およびカウンセリングの実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	アジア/ヨーロッパ言語科 フランス語・スペイン語・中国語・韓国語	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2080/130 単位時間/単位	1248 単位時間	928 単位時間			
			2176 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
400 人の内数	492 人の内数	3 人	112 人の内数	142 人の内数	254 人の内数		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
（概要） 毎週指定された曜日・時限に各言語のネイティブ教員が学生の自習施設に常駐し、日々の学習相談や、会話練習、習熟度確認をしている。また、担任教員による進路相談を行い、学習意欲の向上に努めている。ネイティブ教員と日本人職員の双方向から学修の支援をしている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
152 人 (100%)	33 人 (21.7%)	54 人 (35.5%)	65 人 (42.8%)
（主な就職、業界等） ・小売業界 ・運輸物流業界 ・航空空港業界			
（就職指導内容） ・専門学校で学んだ語学の知識を活用し、自身の興味や能力を發揮できる職業選択。			
（主な学修成果（資格・検定等） TOEIC、実用フランス語技能検定、スペイン語検定、中国語検定、 ハングル能力検定、漢語水平考試(HSK)、韓国語能力試験(TOPIK) 等。			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
391 人	38 人	9.7%
(中途退学の主な理由) 進路変更、学業不振、経済的理由、体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任制度、学生相談室と医務室における心身ケアサポート、入学前事前学習の実施、指導教員オフィスアワーを利用した個別対応指導、ラーニングアドバイザー・TEOIC アドバイザーの設置およびカウンセリングの実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	アジア/ヨーロッパ言語科 インドネシア語・ベトナム語・タイ語	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2208/138 単位時間/単位	992 単位時間	672 単位時間	544 単位時間		
			2208 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
400人の内数	492人の内数	0人	112人の内数	142人の内数	254人の内数		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
（概要） 授業内では体系的な講義を行い、必修科目である現地留学にスムーズに参加出来るレベルチェックを行っている。また授業外においても、週一回の担任とのホームルームを通じて、現地生活に必要な安全・危機管理対策や指導、帰国後のための進路相談、学内にある自習施設ではネイティブ講師を活かした質問を受付ける機会を設け、学生が落ちこぼれることのないよう常に対策を講じている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
16人 (100%)	14人 (87.5%)	2人 (12.5%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） ・小売業界			
（就職指導内容） ・専門学校で学んだ語学の知識を活用し、自身の興味や能力を発揮できる職業選択。			
（主な学修成果（資格・検定等） TOEIC、インドネシア語技能検定、実用タイ語検定 等。			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
34人	3人	8.8%
(中途退学の主な理由) 進路変更、学業不振、経済的理由、体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任制度、学生相談室と医務室における心身ケアサポート、入学前事前学習の実施、指導教員オフィスアワーを利用した個別対応指導、ラーニングアドバイザー・TEOICアドバイザーの設置およびカウンセリングの実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	児童英語教育科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2080/130 単位時間/単位	1040 単位時間	976 単位時間	64 単位時間		
			2080 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		28人	0人	112人の内数	142人の内数	254人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
（概要） グループワークやプレゼンテーションなど実践を交えて授業を行い、教育実習に向けて、授業内および放課後などに演習指導を実施している。小学校へのインターンシップや海外児童施設でのボランティア研修を実施し、意欲ある学生の積極的な学習支援をしている。また担当教員による面談を通じて、修得状況の確認や進路指導を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
14人 (100%)	3人 (21.4%)	11人 (78.6%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） ・教育業界			
（就職指導内容） ・専門学校で学んだ特有の知識を活用し、その能力を発揮できる業界や職種の指導。			
（主な学修成果（資格・検定等） TOEIC、J-SHINE、実用英語技能検定、ビジネス能力検定、コンピュータサービス技能評価試験 等。			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
32人	3人	9.4%
(中途退学の主な理由) 進路変更、学業不振、経済的理由、体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任制度、学生相談室と医務室における心身ケアサポート、入学前事前学習の実施、ラーニングアドバイザー・TEOICアドバイザーの設置およびカウンセリングの実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	国際ビジネスキャリア科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2080/130 単位時間/単位	1088 単位時間	992 単位時間			
			2080 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
240人	137人	0人	112人の内数	142人の内数	254人の内数		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
（概要） 本学科は、アクティブラーニングを多用しており、適宜授業外でも学生のケアを行い、演習科目を通じたリーダーシップ・フォロワーシップ能力の養成に取り組んでいる。また、担任による定期的な個別面談を通じて、学生の修得状況を確認し、個別の進路相談・指導を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
60人 （100%）	21人 （35.0%）	29人 （48.3%）	10人 （16.7%）
（主な就職、業界等） ・製造業界 ・小売業界 ・運輸物流業界			
（就職指導内容） ・専門学校で学んだ知識を活用し、自身の興味や能力を発揮できる職業選択を指導。			
（主な学修成果（資格・検定等） TOEIC、実用英語技能検定、日商簿記検定試験、日商ビジネス英語検定、秘書技能検定、ビジネス能力検定 等。			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
138 人	13 人	9.4%
(中途退学の主な理由) 進路変更、学業不振、経済的理由、体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任制度、学生相談室と医務室における心身ケアサポート、入学前事前学習の実施、ラーニングアドバイザー・TEOIC アドバイザーの設置およびカウンセリングの実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	国際観光科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2080/130 単位時間/単位	880 単位時間	928 単位時間	272 単位時間		
			2080 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		88人	2人	112人の内数	142人の内数	254人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
（概要） 試験対策授業では定期的に模擬試験を設定し、進捗状況の確認と個人の成長に合わせた目標設定・助言を与えている。実務授業においては、教員と学科担当者が共同授業をすることで、教員と学生への相互支援を通して、多面的且つ全学生へ行き届いた指導を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
48人 (100%)	5人 (10.4%)	36人 (75.0%)	7人 (14.6%)
（主な就職、業界等） ・旅行業界			
（就職指導内容） ・専門学校で学んだ特有の知識を活用し、その能力を発揮できる業界や職種を指導。			
（主な学修成果（資格・検定等） TOEIC、実用英語技能検定、世界遺産検定、総合旅行業務取扱管理者試験（実務）、総合旅行業務取扱管理者試験（国家資格）等。			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
85 人	5 人	5.9%
(中途退学の主な理由) 進路変更、学業不振、経済的理由、体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任制度、学生相談室と医務室における心身ケアサポート、入学前事前学習の実施、ラーニングアドバイザー・TEOICアドバイザーの設置およびカウンセリングの実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
文化・教養		専門課程	国際ホテル科	○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験
2年	昼	2080/130 単位時間/単位	960 単位時間	1120 単位時間		
			2080 単位時間			
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人	96人	1人	112人の内数	142人の内数	254人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
（概要） 担任教員による定期的な個人面談を通して、学科の学生全員の修得状況のチェックや進路指導、各種相談を行っている。また、学外教育活動プログラムを設定し、意欲ある学生の積極的な学習を支援している。さらに、学科専門科目担当教員全員で、修得状況の情報を共有し、学習支援の意見交換を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
50人 (100%)	2人 (4.0%)	41人 (82.0%)	7人 (14.0%)
（主な就職、業界等） ・ホテル業界			
（就職指導内容） ・専門学校で学んだ特有の知識を活用し、その能力を発揮できる業界や職種を指導。			
（主な学修成果（資格・検定等） TOEIC、実用英語技能検定、ホテルビジネス実務検定試験、ビジネス能力検定 等。			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
92 人	2 人	2.2%
(中途退学の主な理由) 進路変更、学業不振、経済的理由、体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任制度、学生相談室と医務室における心身ケアサポート、入学前事前学習の実施、ラーニングアドバイザー・TEOIC アドバイザーの設置およびカウンセリングの実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	国際エアライン科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2080/130 単位時間/単位	1152 単位時間	928 単位時間			
			2080 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
280人	288人	1人	112人の内数	142人の内数	254人の内数		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
（概要） サービス業に必要とされるスキル向上のための講義（エアライン業界知識、接遇心理、一般教養、メンタルトレーニング等）を、演習を織り交ぜた形式で実施している。また、2年間を通じ、定期的な担任とのレポートカウンセリングや面談を行うことにより、納得のいく進路選択を支援している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
118人 (100%)	6人 (5.1%)	105人 (89.0%)	7人 (6.0%)
（主な就職、業界等） ・航空空港業界			
（就職指導内容） ・専門学校で学んだ特有の知識を活用し、その能力を発揮できる業界や職種を指導。			
（主な学修成果（資格・検定等） TOEIC、実用英語技能検定、ビジネス能力検定、日本語検定、韓国語能力試験(TOPIK)等。			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
272 人	19 人	7.0%
(中途退学の主な理由) 進路変更、学業不振、経済的理由、体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任制度、学生相談室と医務室における心身ケアサポート、入学前事前学習の実施、ラーニングアドバイザー・TEOICアドバイザーの設置およびカウンセリングの実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	英語基礎養成科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	1248/78 単位時間/単位	1184 単位時間	64 単位時間			
			1248 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人	47人	0人	112人の内数	142人の内数	254人の内数		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
（概要） 本学科は習熟度別にクラス編成をしており、週1回の学習カウンセリングを通じて、修得状況の確認を行い、一人ひとり効果的な学習を計画し、個々の英語基礎力向上に取り組んでいる。また、担当教員による個別面談を通して、進路相談・指導を行い、学科科目担当教員全員と情報共有し学習支援を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
23人 (100%)	18人 (78.3%)	2人 (8.7%)	3人 (13.0%)
（主な就職、業界等） ・小売業界			
（就職指導内容） ・専門学校で学んだ語学の知識を活用し、自身の興味や能力を發揮できる職業選択。			
（主な学修成果（資格・検定等） TOEIC、実用英語技能検定。			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
29 人	6 人	20.7%
(中途退学の主な理由) 進路変更、学業不振、経済的理由、体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任制度、学生相談室と医務室における心身ケアサポート、入学前事前学習の実施、ラーニングアドバイザー・TEOICアドバイザーの設置およびカウンセリングの実施		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考(任意記載 事項)
グローバル コミュニケーション科	150,000 円	1,170,000 円	250,000 円	その他は施設維持費
英語専攻科	150,000 円	970,000 円	250,000 円	同上
留学科	150,000 円	1,070,000 円	250,000 円	同上
アジア/ヨーロッパ言語科 フランス・スペイン・中 国・韓国語コース	150,000 円	970,000 円	250,000 円	同上
アジア/ヨーロッパ言語科 インドネシア・ベトナム・タイ語コース	150,000 円	1,170,000 円	250,000 円	同上
児童英語教育科	150,000 円	970,000 円	250,000 円	同上
国際ビジネスキャリア科	150,000 円	970,000 円	250,000 円	同上
国際観光科	150,000 円	970,000 円	250,000 円	同上
国際ホテル科	150,000 円	970,000 円	250,000 円	同上
国際エアライン科	150,000 円	970,000 円	250,000 円	同上
英語基礎養成科	150,000 円	970,000 円	250,000 円	同上
修学支援(任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページに掲載： https://www.kandagaigo.ac.jp/kifl/main/about/outline/		
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制) 本学規程「学校関係者評価実施要領」に従って実施： 2020年度(2019年度分評価)より実施する。関係者委員会は、評議員、地域住民、教育交流に係る連携機関の関係者、卒業生、学生の出身高等学校関係者、保護者、在学生から、学院長が委嘱する委員により構成する。 教職員は、この学校関係者評価の結果を活用し、教育活動及び学校運営等の質の保証と向上に継続的に努める。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
学校関係者評価を確実に実施し、2020年度からその結果を公表するために委員の選任を行う。	2020.4.1～2022.3.31	
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページに掲載： https://www.kandagaigo.ac.jp/kifl/main/about/outline/ (2020年度から評価を確実に公表する)		

第三者による学校評価（任意記載事項）

c) 当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法）

学校情報は以下ウェブサイトにて公開：

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kifl/>

学校情報に係る刊行物『入学案内書』—以下サイトから請求して入手可能：

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kifl/form/brochure.php>